

ボイスドラマ

# 秋の君に言いたいこと



## 〈登場人物〉

**美山秋穂（みやまあきほ） 18歳**

本が大好きな文芸部員。髪の毛はゆるくウェーブのかかった長髪で、栗毛色をしている。本を読むときは眼鏡をしている。おっとりした性格で、マイペースな面がよく見られる。

**赤羽紅一（あかばねこういち） 18歳**

演劇部部长。野球部のような坊主頭で、熱血漢。小さい頃から舞台などに出演していて、将来の夢は演出家。作品に対して真摯であり、創作のためなら自分の労力を惜しまない。

**田村葉子（たむらようこ） 18歳**

文芸部部长。癖毛のボブヘアで、明るめの茶髪。本好きの秋穂を文芸部に誘った張本人。ストレートな発言を好むが、仲がいい相手には素直になれない。

**後藤博道（ごとうひろみち） 32歳**

文芸部顧問。黒髪ショートの男性。

葉子の叔父で、何かと世話を焼くことになっている。顧問に就いたのも、葉子の頼みから。

## シーン1 〈勧誘〉

文芸部部室で土下座  
をする紅一。

仁王立ちでそれを見  
下ろしている葉子と、  
椅子に座ってそれを  
見ている秋穂。

紅一 頼む！この通りだ！

葉子 だめです！秋穂は貸せません！

紅一 どうしても出演してほしいんだ！我が演劇部の作品に！

葉子 秋穂は役者じゃありません！純粹かつ真つ当な文芸部員です！

紅一 だからこそ！彼女じゃなきゃだめなんだ！頼む、文化祭の間だけでいい！

葉子 秋穂は備品じゃありません！いくら頼まれてもだめです！

秋穂 あのだ…私は別に…

葉子 秋穂は黙ってて！

秋穂 はい。

葉子 とにかく、もしこれ以上言うのなら、先生に言いつけますよ！

紅一 後藤先生に許可は取ってるんだ！彼女を説得できたら、文化祭の間だけなら、演劇部に所属することを認めてもいいと！

ドアを閉めて出ていく紅一。  
ドアの向こうに向かつて叫ぶ葉子。

葉子 叔父さん…私に何も言わずそんなこと…だとしても！誰が何と言おうと、

この文芸部部长、田村葉子が許しません！

紅一 くっ…仕方ない…今日のところは一旦引き上げよう。明日また来る！

葉子 もう来なくていいからねー！

秋穂 葉子、もうちょっと親切にしてあげてもいいんじゃない？

葉子 秋穂がそれを言う？いきなり演劇部なんかに駆り出されたくないでしょ。

秋穂 そうだけど…お話ぐらいは聞いてあげてもよかったんじゃないかな？

葉子 話し合いができるタイプじゃなさそうだけどね。あいつ有名だし。

秋穂 そうなの？

葉子 演劇部部长、赤羽紅一。自分の作品のためならなんでもする、おかしいやつ。

秋穂 初めて聞いたなあ。

葉子 秋穂は本以外興味なさすぎだからねー。

…待てよ？なんでもするのか…なら撃退できるかも！

秋穂 何するの？

葉子 名付けて、「竹取物語作戦」よ！

BGM①

全員 タイトルコール

秋穂 美山秋穂。(自分の名前)。

紅一 赤羽紅一。(自分の名前)。

葉子 田村葉子。(自分の名前)。

後藤 後藤博道。(自分の名前)。

BGM① out

シーン1 終

職員室を訪問する

葉子。

葉子の声を聞いて、そ

ちらに振り返る後藤。

後藤の声を聞き、席に

近づく葉子。

## シーン2 〈後藤先生〉

葉子 失礼します！3年2組、田村葉子です。後藤先生いますか？

後藤 んー？お、田村。何か用事でも…

葉子 叔父さん！なんで秋穂のこと容認したの！？

後藤 おい！学校では叔父さんて呼ぶなって言ってるだろ！

葉子 いいから答えて！

後藤 美山のことだろ？赤羽がどうしてもって言うから、それならって感じで…

葉子 それなら部長の私に相談してよ！

後藤 いやお前、相談なんてしたら絶対嫌がるだろ…

葉子 そりゃそうよ！ただでさえ少ない部員数なのに、エースがいなくなるなんて！

後藤 エース？

葉子 秋穂はね、本の虫なの。本の虫を地で行く子なの。

国から見ても大切な存在なのよ！

BGM② out

回想に入るSE

葉子「危ないよー！  
おーい！  
ちよっと、危ないっ  
て！」

後藤 どこ調べなんだそれ…そこまで言うほどだったか？

葉子 そうよ！初めて会った時のこと話さなかった？

後藤 聞いてないな。

葉子 そう、あれは初登校の日だった…

前の方に、本を読みながら歩いてる子がいて、赤信号を渡ろうとしたの。

声をかけたんだけど、止まってくれなくて。

走って、無理やり肩を掴んで引き留めた。そしたらようやくこっちを振りむいて。

すごく迷惑そうな顔をしながら、

秋穂 なんですか？

葉子 って言ったのよー？

後藤 重症だな…

葉子　それが美山秋穂って子なのよ。それから毎日心配と一緒に登校するようになって、文芸部一緒に入って：

後藤　まあ美山が本好きなのはわかったが：でもそれを言うなら、赤羽もエースだぞ。毎日一人で残って本書いたり、演出考えたり。

葉子　そりや部長だったらそこまでやるわよ。私も同じようなものだし！

後藤　お前なんかやってたか？

葉子　当たり前でしょ！そろそろ文化祭だから、出し物考えたりとか：

後藤　部員集めとかは？

葉子　そういうのもういいの。どうせ幽霊部員しかいないし。来年には文芸部無くなりそうでしょ？私たちが最後なわけだから、爪痕残すようなもの作りたいの！

後藤　ふーん。例えば？

葉子　それは：まだ決まってるないけど。

後藤　思いついてから言いなさい。

葉子　でもでも、そこに秋穂は必要だから、演劇部に貸すわけにはいかないの！

後藤 そうかそうか。それで、美山はなんて言ってるんだ？

葉子 え？

後藤 だから、美山自身はなんて言ってるんだ？

葉子 いや、何も…

後藤 …さてはお前、何も話してないな？

葉子 そろそろ話そうと思ってた。

後藤 まずは本人の意思確認が大事なんじゃないのか？赤羽の件にしてもさ。

葉子 それはもう解決策があるから。

後藤 解決策？

葉子 秋穂は渡さない。きれいさっぱり諦めてもらうわ。

後藤 はあ…なんでもいいけど、危ないことだけはするなよ。

葉子 わかってますー！…失礼します！

後藤 世話のかかる姪っ子だ…

後藤の席から離れ、職員質を出ていく葉子。

BGM② out

シーン2 終